

序に代えて

苦悩の原因は私の欲望にあり

一 郷 正 道

作家の高村薫さんが現代文明の危機の原因を次のように述べておられます。

いまの世の中は、自ら手がけた科学技術が、制御できないかもしれないと思いつつも使う方向に突き進んでいます。遺伝子操作や人工知能もそうです。欲望が止められないからです。科学技術は人間に大きな利益をもたらしましたが、同時に破壊させるような負の遺産も残したと思います。本当に恐ろしいのは、人間の欲望なのかもしれません。(朝日新聞平成30年12月5日)

このように高村さんは現代文明の危機の原因が「人間の欲望」にあることを指摘されておられます。

それでは、その人間とはいかなるものでしょうか。仏教では、人間とは五蘊^{ごいん}仮和合の存在と説明します。五蘊とは五つの要素の意味で、いろ・形という物質的要素と、感覚、表象、意欲、認識という四つの精神的作用を合わせたものです。この五つの要素が仮に寄り集まって形成されているのが人間であると考えます。従って、そこにはエゴ、靈魂といったものは見出されません。

そして、その人間存在を苦であると考えました（五蘊盛苦）。苦の具体的な内容は次のように分析します。生・老・病・死・愛別離苦（愛している人とも別れなければならぬ苦）、怨憎会苦（怨み憎しみ合っている人とも会わなければならぬ苦）、求不得苦（求めども得られぬ苦）の七つです。このような苦からの解放を説くのが仏教です。

そして、高村さんが指摘されるように、その苦の原因が私たちの無知と欲望にある、と見抜かれたのが約2500年前インドに誕生された仏教の開祖、お釈迦様でした。因みにその欲望は、性愛、生存に対する強い欲望（有愛）、生存の滅亡に対する強い欲望（無有愛）の三種に分析されています。

以上から私たち人間の苦の内容とその原因は判明しました。それでは、苦から解放されるためにはどうしたらいいのでしょうか。苦の原因である欲望を断てばいいのですが、欲望のあることが生きていることの証しですから、それは不可能なことです。

生きている限り苦の原因である欲望を絶滅することは不可能でも、軽減することは可能であることを仏教は教えています。それは、「少欲知足」（欲することを少なくして足りていることを知りなさい）という教えです。人間の欲望は際限がない。その欲望を制限して、すでに充足していることに気づきなさいよ、という教えです。現代の深刻な環境問題への対応も私たちが「少欲知足」を日常生活において実践することだと思えます。そして、これなら私でも心がけることができますし、健全な未来社会のために貢献できると愚考します。

